

園長	副園長	教頭	主幹

目 標	こども園と子育て支援センター(拠点)事業が共同で、地域に開かれた学校及び社会福祉施設として、子育ての知識や経験、技術を提供しながら子どもの健全育成及び子育て家庭の支援を図る。
-----	---

活動項目	活動名	ねらい	活動内容	実施詳細	
交流の場の提供	●子育てサークルの開催	①親子あそびサークル	〇保護者支援をしながら仲間づくりを進め、サークルとして活動できるよう支援する。 〇保育教諭等により、親子あそびなどの行事を通して体を動かしながら親子また他の保護者とも交流を深める。”	〇保護者支援をしながら、仲間づくりやサークルとしての活動ができるように支援していく。 〇グループをつくり、保護者主導で活動ができるように支援する。”	①月2回行っている。
	★こども園体験	〇地域の親子と交流を深める。 〇こども園の施設や遊びを体験してもらう。”	〇地域の親子と交流を深める。 〇こども園の施設や遊びを体験してもらう。”	〇平日の午前中など子育て中の保護者を中心に、家庭では味わえない場所、遊具などで遊ぶことができる。 〇入園などの相談を受ける(入園の時期、方法など)。”	〇平日の午前中など子育て中の保護者を中心に、家庭では味わえない場所、遊具などで遊ぶことができる。 〇入園などの相談を受ける(入園の時期、方法など)。”
	★おでかけ保育	①園外保育	〇地域の親子と交流を深める。 〇いろいろな遊びや体験を提供する。”	〇職員が様々な情報収集に努め(保護者からの情報も含め)簡単な遊びを保護者や子どもに伝えたり、育児相談及び子育て支援の広報に努める。	〇大型紙芝居を持っていったり、こども園ならではの移動可能な遊具を持参して、遊びを提供する。 〇園内では出来ない体験を提供する。”
	★各種イベント		〇イベントを通して仲間づくりのきっかけとなり、保護者同士の繋がりを深める。 〇季節の行事を親子で楽しむ。	〇季節に応じた遊びや制作の提供	〇月6～8回実施
相談援助の実施	●育児相談	①電話相談 ②来所相談	〇相談者の話を傾聴した上で、保育教諭、専門スタッフによる育児に関する知識や技術を提供する。また、場合によっては専門機関につなげる。	〇保育教諭、看護師等こども園の専門スタッフにより、育児、健康、食育に関する知識や技術を提供する。	〇月曜日～金曜日 9:00～17:00(随時受け付け)
	●他機関との交流	〇サークルや市役所、図書館の掲載等を通して情報を提供、広報活動を推進する。	〇自園の子育てサークルの案内などの情報を発信する。	〇月1回「支援センターだより」を発行し、保健センター、子育て支援センター、図書館、支所などに置かせてもらう。	
関連子育ての支援提供	●他機関との交流	〇地域の関係機関、他園との交流を通し情報交換を行う。	年1回、子育て支援センター主催で、阿賀野市私立合同で活動内容の報告会を行う。	〇月1回「支援センターだより」を発行し、保健センター、子育て支援センター、図書館、支所などに置かせてもらう。	
	●他機関との交流	〇地域の関係機関、他園との交流を通し情報交換を行う。	年1回、子育て支援センター主催で、阿賀野市私立合同で活動内容の報告会を行う。	〇月1回「支援センターだより」を発行し、保健センター、子育て支援センター、図書館、支所などに置かせてもらう。	
一時保育	◎活動種類 ① 緊急保育(月5日間) ② 私的理由保育(月5日間) ③ 住民票がない場合の保育(主に里帰り出産/月5日間) *ただし、祖父母等の住民票が市内にあること。	〇実施詳細(受け入れ) ・事前に電話予約(キャンセルも電話で) ・月曜日～金曜日 8:30～16:30(随時受け付け)”	〇活動内容 ・在園児と共にいろいろな遊びを経験する。 ・保育教諭等の誘いに応じて、集団生活に慣れ、生活習慣を少しずつ身に付けていく。”	〇受け入れ時の配慮 ・保護者が安心して利用できるように、丁寧な対応を心掛ける。 ・食事(アレルギーの有無)、睡眠、排泄、癖、好きな遊びを確認する。 ・個々に合った活動を進めていく。 ・保育中の発熱などに対応できるよう、必ず複数の連絡先を確認する。 ・降園時は、一日の様子を連絡カードなどでできる限り伝える。”	
備考	●子育て支援 ★子育ての支援				
評価と反省	<p>年度初めは継続利用者が少なかったが、担当の保健師さんから訪問の際に支援センターのパンフの配布と声掛けを通して、新規の利用が増えた。ベビマやイベントを通じてママ同士の繋がりができ和やかな雰囲気支援センターだった。</p> <p>外部講師のイベントは好評だったため次年度も継続する。</p> <p>支援センター独自のイベントについては、利用年齢に差があり計画を組み立てるのが大変であったが喜んで参加していたので次年度も行っていく。</p> <p>今年度より始めたクッキングは後半に集中的に行ったが、次年度は子どもの利用年齢と成長を見て計画していく必要がある。</p> <p>月1回の手形・発育測定については、隔月地区担当の保健師さんが来ることで、情報交換の場となりとてもよかった。いろいろな専門機関と連携を取りながら、親子にとってより良い支援センターであるよう努めていきたい。また昨年同様、核家族が増えてきているため相談しやすい雰囲気づくりも心がけていきたい。</p>				